

藤原道山

藝大に入ってやりたい目標がいくつもあった。
贅沢な環境に支えられていまの自分がある。



藝祭から受けた感動

祖母が箏曲家で、母もお琴をやっておりましたので、稽古場で育ったみたいなところがあります。襖の向こうで本を読んでいた、静かにしてなさいといった感じで過ごしていました。父親も音楽好きで、ジャズやクラシックとジャンルを問わず聞いていたので、自然と耳に入ってきたのも大きかったですね。歌を歌ったり、楽器を弾くことは自分も大好きで、なかでもリコーダーは、登下校中も吹くぐらいの熱の入れようでした。それを見た家族が、「男の子だし尺八を習えばいいんじゃないか」ということで尺八を始めることになったのです。

山本邦山先生に師事したのは中学二年生のときからです。邦山先生につく前に二人の先生に習っていましたが、最初の先生は手ほどのころに習っていて、その後たまたま邦山先生のお弟子さんが祖母のところへ合奏に来ていたので、その方に教えてもらおうようになりました。熱心に教えていただきましたが、僕ののめり込み方を見て、もしよければ紹介しますと言ってくれたのが邦山先生につくきっかけでした。

中学一年生のときに、藝大に入った知り合いから、「藝祭に来てみる？」と誘われ、上野に行ってみると、野外でガムランや雅楽をやっていたり、ジャズバンドが演奏していたり、校舎の中ではオーケストラ演奏があれれば、お能があり、長唄があり、尺八、お箏が奏でられていて、さまざまな音楽がこの学校にはある。こんなふうに音に囲まれた環境の大学に進みたいとき思ったのです。

目標の達成に向けて

ぼくは藝大に入ったらやりたいことがいくつもありません。

ひとつはオーケストラと共演したいというもので、四年生のとき藝祭で、コンチェルトをやると決めていました。三年間はそのため準備しようと、作曲科がとるような授業に顔を出しているうちに洋楽系の学生と仲よくなりました。そうやっていろいろな人と出会うことで大きな影響を受けることができました。尺八のための作品を新しくつくってほしい、尺八という楽器をもっと知ってほしい――。

都立高校に通っていたとき、ブラスバンドでフルートを吹いていましたが、男は少なく、フルートは人数が多いので「指揮をやれ」と言われ、



『季(TOKI)-春-』日本コロムビア

指揮棒を振っていました。そういうこともあって、五線譜、特にスコアを読むのは苦になりませんでした。二年生になると藝祭で自主公演ができるので、邦山先生の作品でプログラムを組んだコンサートを開いたり、作曲科の学生に尺八の新曲をつくってもらって演奏したこともあります。新しい出会いによって自分の音楽もどんどん深まってくるし、音楽というのは人がつくっていくもので、ジャンルで区切られるものではない、「この人の音楽を聞きに行く」という意識が強くなってきました。それから自分のなかで、音楽の垣根がなくなりました。

大学での副科の授業も、やってみたいことの一つでした。邦楽の副科では副主専攻の箏、三絃の他に、長唄の笛、鼓、雅楽の笙、能楽の観世流と狂言、能管をとっていました。狂言は野村万作先生に二年間、お習いしましたが、最初一〇人ぐらいでレッスンしていたのが、ひとり減り、ふたり減りして、最後は個人レッスンになり、能楽専攻生にうらやましがられました。(笑)万作先生はとても厳しかったですよ。西洋音楽の副科も積極的に受講して、二、三年生では小畑善昭先生にオーボエ、四年生では佐久間由美子先生にフルートを教わることができました。トッププレイヤーに教えることができる、藝大ならではの贅沢なところだと思います。

尺八のもつ可能性

ほかの楽器と異なる尺八の魅力といえば、音色がこれだけ多彩な楽器はないと僕は思っています。たとえば息の音も音楽にしてしまう。そこから純音に近いような音色まで、非常に幅広い音と音色を使いこなせるのです。西洋の人たちが尺八に影響されて曲を書くのも、そういうことが理由かもしれません。そんな意味で尺八は、まだまだ可能性に満ちた楽器ではないかと思っています。また、演奏する際、奏者の個性が強く反映されます。ちょっとした気の緩みまで出てしまいますから。どんな楽器でもそうかもしれませんが、楽器に頼り過ぎず、自分の意識をしっかりもつことが大切ではないかと思うのです。

来年はCDデビュー十五周年になるので、記念になるようなコンサートをいま企画しているところです。これまでに出会った人たちが、現在の自分にとっても大きな影響を与えてくださっているのです、そういう出会いを大事にしたコンサートにしたいと考えています。自分の出発点である藝大の方々にも参加していただきたいと思っています。



ふじわら・どうぞん

尺八演奏家・作曲家。1972年東京都生まれ。10歳より尺八を始め、人間国宝山本邦山に師事。91年東京藝術大学音楽学部邦楽科尺八専攻入学。93年都山流師範検定試験に主席登第。道山の名を受ける。95年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。同大学大学院音楽研究科入学、97年同修了。2001年アルバム「UTA」でCDデビュー。以来14枚のアルバムをリリース。現在、都山流尺八楽会大師範。都山流邦山会、日本三曲協会、江戸川邦楽邦舞の会会員。山本邦山尺八合奏団団員。「曠の会」同人。ホリプロ所属。東京藝術大学音楽学部邦楽科尺八専攻講師として後進の指導も行う。